

# 立命館経済學

第十二卷 第二号

昭和三十八年六月

---

## 内 容

### 論 說

- A・スミス D・リカードオ J・S・ミルにおける  
租税理論の展開……………箕 浦 格 良 1  
——古典学派における財政思想 (≡)——
- 戦後地方経費の展開過程……………加 藤 睦 夫 30
- 一八世紀後半および一九世紀前半にお  
けるライン・ヴェストファーレン鉄  
加工業の発展と市場構造……………川 本 和 良 52

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第十一巻第五・六号

古典学派の二つの貿易理論……………井上次郎

「労働の疎外」と「労働力の商品化」……………清水正徳

——梯 明秀教授の所説によせて——  
いわゆる「平均化原理」と「限界原理」……………井上晴丸

——白杉理論への疑問——  
「経済学方法論」と統計方法……………大橋隆憲

「梯経済哲学」を生かすもの……………平井俊彦

白杉価値論にかんする若干の考察……………岡崎栄松

——いわゆる「効用測定の原理」を中心として——  
宇野氏「経済法則」論批判……………吉村達次

独占的剰余価値と価値・価格理論……………松田弘三

——平瀬教授の白杉独占理論批判の検討——  
財政制度論の一視点……………加藤睦夫

——戦後初期における制度改革を中心として——  
E E C 内部の国際分業法則……………清水貞俊

——合意的分業の原理によせて——  
梯 明秀教授略歴・主要著作目録

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学 第十二巻・第一号

論説

計量経済学モデルによる戦後景気循環の構造分析(一)……………岡崎不二男

——制約された循環か自由な循環か——

経済と政治における自由の展生(一)……………高橋良三

——その史的概観——

広い意味での経済学について(承前)……………木原正雄

——「社会主義経済学」の生成と発展——

中国国民経済の発展過程(一)……………松野昭二

——工・農業関係の発展を中心として——

発行所 立命館大学人文科学研究所